

大好評!!

月極定額マッサージ

何日 きても 4,900円

※ 発効日から1ヶ月有効
 ※ 1日1回のご利用OK!!
 10回来たら1日あたり490円!?

11:00~17:00 定 木曜日

まるいちほぐし庵
 垂水市浜平2036番地6 道の駅 たるみず はまびら内

お客様から喜びの声をいただきました

- 仕事帰りに寄ってます。土日もできるので良い (40代 男性)
- 1ヶ月使い放題なので週3回は行ってます。(60代 女性)
- マッサージも強くないのでお年寄りにもおすすめしてます。(80代 女性)
- 友人にも紹介して利用しています。(50代 男性)
- 温泉に行く前にマッサージに行きます。一日の疲れもスッキリです。(70代 女性)
- その日によってマッサージしてもらったところも変わっていています。希望を伝えたらやってくれます。(50代 女性)
- 2か月続けています。週に2回ほど行きますがお得です。(50代 男性)

ご予約不要!
お気軽にお越し下さい!!

5月9日(日)は **母の日**
 忙しいお母さんにありがとう
今日はおウチで光華園
 定食以外持ち帰りOK!!
 ★当日は混雑が予想されますご予約はお早めに!!

ホールスタッフ 募集!!
パート/アルバイト

◎ 夕方(17:00~) 働ける方!!
 時給 900円~ ※制服/食事あり
 ★詳しくはお尋ねください。
調理師(見習いも可)募集中!!

中華料理 **光華園** 営 11:30~14:00
 17:00~21:30 (オーダー20:30まで)
 垂水市錦江町1-56 (垂水中央病院向かい) TEL 32-5760
 定休日: 木曜日 月曜日は昼のみ営業

うなぎの柳川 5月末まで
オープン1周年記念イベント

うなぎせいり蒸し 大隅産うなぎ100%

(店内) ¥3,000 → **¥2,000** (税込)
 (お持ち帰り) ¥2,800 → **¥2,000** (税込)

うなぎ丼 (店内) ¥2,800 → **¥2,000** (税込)
 (お持ち帰り) ¥2,600 → **¥2,000** (税込)
 ※ハーフサイズ、単品メニューは従来通り

テレビでも放送されました大好評です
 鳥の唐揚げ復活のお声を多数頂きましたので販売いたします。
 ◇鳥の唐揚げ弁当 ¥500 ◇(単品)鳥の唐揚げ ¥500

うなぎの柳川 お持ち帰りはAM9:00~PM5:00まで受付です。
 垂水市錦江町1-34 店内営業時間 11:30~13:30
 TEL 0994-32-5821 定休日 月曜日

第12回 たるみず歴史・文化散歩

儒学者

『市川鶴鳴』

高名な儒学者

市川鶴鳴(以下、市川)は元文五(一七四〇)年、武蔵の国川越で生まれました。荻生徂徠門下の大内熊耳(初代造士館教授、山本正誼も学んでいる)に学び、群馬の高崎藩に仕えた高名な儒学者です。

安永十(一七八一)年、市川は薩摩に遊学し、薩摩本藩に仕えようとしたが果たせず、この頃、垂水島津家の第十代領主・貴澄(たかすみ)に請われて海潟の「櫻嶋焼亡塔」に刻まれた文章を作っています。

市川の才能を高く評価していた貴澄は天明四(一七八四)年、垂水に家老として招き、

禄百石を与えました。しかし、市川は家老に就任してからわずか三年後、天明六(一七八六)年には家老職を辞めて京都へ転出しています。

垂水島津家の家老

市川の家老としての活動を見ると、『垂水市史・上巻』に「一 学問を奨励し、力を入れたこと。一 門閥数氏の禄高を削ったこと。一 先例とか、古格とかは言うべきでない。役人も家格によらず賢愚を以つてせよ。」などの政策を打ち出し、実行しています。

第九代・貴儔(たかとも)以

来、逼迫していた垂水家の財政を再建することが目的とされていましたが、古くから垂水家に仕えていた家臣団の中には、このような急進的とも思える改革に反発するものが現れるのは当然で、領主・貴澄や本藩にまで中傷し、訴えました。その結果、市川を解放するよう藩命が下り、貴澄も市川の家老職を解かざるを得なかったのです。

市川には薩摩に遊学したとき見聞した政治・文学・人情・風俗等を論評したという『南中独語』や、貴澄の人君としての心得を示した『君道論』の著があります。

しかし、市川が垂水を去ったあと、在任中の文書記録は焼却され、民間にあった『南中独語』もみな焼かせたといわれています。垂水人士の市川を憎むこと、いかに激しかったかを想像するに難くありません。文字通り、石もて追われるごとく垂水を離れた、と言っているでしょう。

市川の実績

市川の実績の一つに、文行館(場所は現在の垂水高校の西側)の設立に尽力し、麓の子弟の教育に力を入れたことが上げられます。それは後に垂水が「本藩に属する支封の者は数所なれども、治行は垂水を第一とす」と称えられる基礎をなすものであったと言えます。

のちに市川は高崎藩に召し返され、弟子の育成や藩主の世子の教育に力を注ぎましたが、寛政七(一七九五)年、五五歳で没しました。

【参考資料】
 『垂水市史・上巻』(平成10年 上園正人「市川鶴鳴と垂水」(七岳・第17号))



▲垂水高校横にある文行館跡地看板

(文化財保護審議員・瀬角龍平)